

構造-演習問題 4

「得点できたかどうか」「○か×か」ではなく、問題文を読んだ時に、「その関連の知識が、頭の中にどう収納されているのか、フォーカスポイントはどこか」を簡単に**余白に描き出して**みてください

ウラ模試 2

[No.22] プレストレストコンクリート構造の設計に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. プレキャスト部材を継ぎ合わせて、プレストレスにより圧着接合する場合、圧着部の継目に生じるせん断力は、摩擦抵抗機構のみで伝達するように設計する。
2. プレストレス導入時の部材の断面検討において、コンクリートの許容圧縮応力度は、コンクリートの設計基準強度の 0.5 倍とすることができる。
3. プレストレストコンクリート構造の種別は、長期設計荷重時に梁断面に生じる引張縁の状態によって、Ⅰ種、Ⅱ種及びⅢ種とされている。
4. プレストレスト鉄筋コンクリート（PRC）造の建築物では、長期設計荷重時に部材に生じる曲げひび割れの幅を制御した設計を行う。

ウラ模試 2

[No.30] 免震構造及び制振構造に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 免震構造に用いられる積層ゴムアイソレーターの水平剛性は、面圧（支持軸力を積層ゴムの水平断面積で除した値）の大きさによって変化する。
2. 第三種地盤において免震構造の構造設計を行う場合、建築物の高さにかかわらず、時刻歴応答解析により設計する必要がある。
3. せん断パネルを鋼材ダンパーとして架構に設置する制振構造は、原則として、せん断パネルが先に降伏するように設計しなければならない。
4. 制振構造に用いられるオイルダンパーは、建築物の動きが小さな段階ではあまり制振効果を発揮しない。